

プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「現場の経験を政策へ」号 2011年8月25日 (Vol.20)



はじめに

1. 現場活動の実況中継

1.1 モニタリング・評価担当官たるもの

2. プロジェクトの進捗報告

2.1 村落開発ポリシー策定支援

2.2 県開発モデル構築・フィーター道路改修工事

2.3 研修計画

3. コラム：シエラのチカラ

3.1 アクロバット乗り、アクロバット積み

3.2 プロジェクト宿舍事情

3.3 たくましい筋肉のワケ

4. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ 第15話

*プロジェクト HP にもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>



シエラレオネ



プロジェクト対象県

はじめに

2009年11月にプロジェクトが始まって以来、ほぼ毎月発行してきましたプロジェクトニュースも今回で20回の節目を迎えました。

これまでの記事を改めて読み返すと、プロジェクトは生き物のように、ダイナミックに動き、そして成長していることを感じます。

「プロジェクトから手当てがない、と不平ばかり漏らしていた県議会職員の〇〇さんは、今では手当てを要求することなく積極的に現場にでかけるようになった。」、「住民や業者に自信を持って助言できるようになった県議会職員」などの成果は、氷山の一角といえるでしょう。

これまでの成果を支えているのは、水面下にあるのは相手国の関係者とプロジェクト専門家の日々のやり取り



本プロジェクトで発行した英語のニュースレター

です。これこそがお互いの信頼関係を作り上げていくプロセスそのものともいえます。

広報記事を書いていると、プロジェクトの活動を省みるいい機会になります。プロジェクト専門家が日ごろからどのようなことを思い、考えながら活動しているのか、そして私たちが支援しているシエラレオネの行政関係者や住民代表者がどのように変化していくか、その変遷を記録に残すことにもなります。

これからもプロジェクト専門家一同、継続して広報に力を入れ、プロジェクト活動のみならず、シエラレオネの人々の生活や文化など、現地の人々と日ごろからやり取りしているからこそ見えてくる現地の状況をお伝えしていきます。

最後にお知らせですが、本プロジェクトホームページ

(<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>) の掲載写真が新しくなりました。またプロジェクトでは四半期に一度の割合で、英語のプロジェクトニュースレターも発行しています。主にシエラレオネの政府機関・国際機関などに配布しているものです。8月にプロジェクトホームページに英語のプロジェクトニュースレターも掲載しました。一度お時間のあるときに、プロジェクトのホームページをご覧ください。
(平林リーダー)

ニュース 1：現場活動の実況中継 -モニタリング・評価担当官たるもの・・・

モデルワードプロジェクトを実施する際に、最も重要なカウンターパートのひとりが M&E オフィサー (モニタリング・評価担当官) です。カンビア県では、今年 1 月から新人 M&E オフィサーのサンチギ氏が勤務しています。

彼は文学部出身でモニタリング・評価は専門でないことから、県議会内でも適任者ではないと反対意見はあったそうですが、着任後無難に業務をこなしています。

また、この 7 月にカンビア県の主席行政官が交代しました。サンチギ氏は新しく着任した主席行政官に、業務を行う上で支障がある点を色々と相談したそうです。



カンビア県議会 モニタリング・評価担当官

その結果、パソコン(理由:パソコンがあると業務をスムーズに行える)と、バイク(理由:バイクがあるとモニタリングがはかどる)が支給されました。これで、もう支障はなくなりました。あとは結果を出すのみです。

しかし、業務に関しては「これから」のサンチギ氏。モデルワードプロジェクトのワークショップでは、経験豊富なプロジェクトマネジャーのアブバカル氏のファシリテーターぶりを勉強していました。その勉強の成果はいかほどなのか。次のワークショップでは、成果を発揮すべくファシリテーターとしての活躍してもらいたいと思います。
反町専門家 (研修計画)

ニュース 2：プロジェクトの進捗

2011 年度実施予定の主な事業		
主な活動	予定	進捗状況
県・村落開発ハンドブックの草案	2011 年 5 月までに目次案を作成。 2011 年 6 月からハンドブックの草案作業を行う。	目次案作成。草案を開始。
モデルワードプロジェクト	カンビア県 4 件、ポートルコ県 2 件 (社会・経済基盤整備) のモデルワードプロジェクト支援を通じ、県・村落開発モデルのうち、特に村落開発モデルの構築を行う。	各ワードでモデルワードプロジェクトの準備説明会・研修中。
パイロットプロジェクト： フィーダー道路・カルバート改修工事	フィーダー道路改修計画を支援し、県議会の実施体制と機能把握、課題を抽出し来年度開始するモデル事業のモデル案を作成する。 主な工事：フェーズ 1 第 1 ターム (2011 年 5 月末まで) カンビア県：フィーダー道路計 17Km, カルバート 32 箇所 ポートルコ県：フィーダー道路 12.7Km, カルバート 7 箇所 主な工事：フェーズ 1 第 2 ターム (2012 年 5 月末まで)	課題の抽出とまとめ。次タームの道路計画の準備を進める。 工事進捗：カンビア県 Lot1 と Lot2、ポートルコ県の工事完了。 カンビア県 Lot3 の工事实施中。
研修事業	県議会職員、ワード委員会メンバーへの国内研修、第三国研修。パイロットプロジェクトのインパクト調査実施。	研修計画とりまとめ。

2.1 村落開発ポリシー策定支援 —現場の経験を政策へ—

シエラレオネでは、1994 年に村落開発ポリシーの策定作業が行われていましたが、内戦がシエラレオネ全土に広がり、状況が悪化したこともあり作業は立ち消えになりました。当時作成した同ポリシー案は地方自治地域開発省内に長い間眠っていました。

そして今年に入り、地方自治地域開発省大臣のリーダーシップにより、村落開発ポリシー策定に向けた作業を再開しました。私も本省から同ポリシー策定作業委員会のメンバーに指名され、今日まで定期的に作業に参加してきました。

村落開発ポリシーは、シエラレオネ政府が行政を通じた村落開発のあり方を示すものです。シエラレオネが推進する地方分権化の枠組みの中で、縦と横のつながりを整理しています。縦は中央政府と地方行政、地方行政とパラマウントチーフやセクションチーフ、ヴィレッジヘッドマンなど、地元有力者との連携のあり方、横は主に県議会と各セクターの事務所との連携について整理しています。また、村落開発にあたり、若者の雇用促進、経済活動の活性化、ジェンダー配慮など留意すべき点についても触れています。



県議会と住民の協働プロジェクト

村落開発ポリシー案作成作業にあたり、シエラレオネ関係者の意見を取りまとめ、助言し、編集作業を行いました。シエラレオネのポリシーですから、シエラレオネの人々の考えが出来る限り反映されるような配慮が必要です。

これまでの一連の作業では、本プロジェクトの現場活動の経験から得られた教訓もとに、村落開発ポリシー案策定作業の際に助言しています。その他、本省が取り扱っている地方自治法の改訂やその他関連ポリシーの策定の際にも、本プロジェクトの現場経験を集約し、助言してきました。

これまで大臣自ら音頭をとって、1日に3時間から4時間かけて、主要メンバーと同ポリシー案を一字一句読み合わせをし、内容を検討したことが何度かありました。半年以上かかった作業ですが、ようやく案もまとまり、閣議に提出される見通しが立ちました。現場の経験をその国の政策につなげる。これも本プロジェクトのひとつの大きな成果といえます。

これも本プロジェクトに関わる専門家を始め、関係者のひとつひとつの尽力が結集した証です。引き続き本プロジェクトでは、シエラレオネ政府が推進する「地方行政を通じた村落開発」を現場からそして政策レベルから支援していきます。

(平林リーダー)

2.2 県開発モデル構築・フィーダー道路パイロットプロジェクト：地域の発展へと続く道のために

農村地域に住む人々にとってフィーダー道路の整備は、地域の発展や生活レベルの向上にとって重要です。フィーダー道路改修プロジェクトは、その改修と効果的な事業実施の能力向上のために支援しています。

この6月で昨年の8月から実施されていたフィーダー道路改修プロジェクトフェーズ1ターム1で改修されていた3路線の工事は終了し、竣工式が実施されました。カンビア県では地方自治地域開発省大臣、ポートロコ県については同省副大臣が参加し、地元住民が集まる中、盛大に行われました。現在雨季真っ盛りですが、道路は大きな修復もなく、住民に喜ばれているようです。

ただし、まだ2点懸念が残っています。ひとつは、カンビア県では、1路線（Lot3）で業者の働きが悪く、契約終了から2カ月経って、ようやく、8月18日に完工検査を実施いたしました。業者の資金繰りと能力に問題があったためですが、県議会、道路局、スタッフと一丸となって問題に取り組み、何とかもう一息までたどり着きました。業者の選定方法とその工事の監理は今後の課題として取り組みます。



パイロットプロジェクトのひとつ：県議会と住民の尽力により整備された市場



Lot3の完工検査後。ようやく終了にめでたが立ちました。

また、ポートロコ県の路線では、始点から 400m の地点に、施工中に突如として鉱山会社によって、鉄道のための高さ約 8m の盛土が設置され、道路が分断されました。4 か月ほど経つのですが、盛土を越えるための申し訳程度の取付け道路が設置されたのみ。トラックは通行できないこともあり、事故も起こっています。副大臣、県議会議長等から、鉱山会社に働き掛けるようにしています。このような問題の解決も行政の重要な仕事です。



フィーダー道路を分断する巨大盛土。人が小さく見え

ます (中央)

さて、この 8 月からは、ターム II の道路改修のための準備が始まります。まずは、県開発モデルに盛り込むべき重要な道路計画を 6 月から立て始めており、すでにそれに沿って初期道路調査を実施しています。この結果から設定した基準によって、重要度の高い道路を各県とも一路線ずつ選定します。この作業の重要な点は、関係者が一堂に会し、包括的な計画を立てることで JICA プロジェクトだけでなく、他ドナーや政府予算での道路改修プロジェクトとの役割分担をし、作業の重複をさけることです。当たり前のことですが、今まで機能的に実施されていたとはいえませんでした。この後に測量、設計、入札準備を経て、順調にいけば、11 月初めには業者選定のための公示ができる予定です。

さて、最後になりましたが、フェーズ I ターム I に引き続き、シエラレオネに帰ってきました。また、地方の道路網の整備とその住民たちの生活の向上、地域開発に寄与できればと思っています。また 1 年、宜しく願いいたします。

宿谷専門家 (道路計画・設計/施工管理)

2.3 研修計画 – 研修計画の策定 –

モデルワードプロジェクトが始まり、村落開発モデル構築のために、これから本格的な県議会職員、ワード委員会への研修も始まります。

県議会職員への研修は、モデルワードプロジェクト、フィーダー道路プロジェクトを実施するために必要な能力を強化すること、ワード委員会への研修は、モデルワードプロジェクトを実施する際に必要な能力を強化することです。

これらの研修の中心は、モデルプロジェクトの一連の作業を通じた OJT になります。モデルプロジェクトの実施を通して研修できない内容については、シエラレオネの研修機関や第三国研修、スタディツアーなども有効に活用し、研修を実施していく予定です。



ワークショップの様子。

研修の大枠が決まったところで、研修の対象者たちを知る必要があります。まずは、モデルワードプロジェクトのワークショップに同行し、参加者であるワード委員会のメンバーを観察しました。ワード委員

会のメンバーは年齢層も識字レベルもワードごとに異なります。彼らに一体どんな研修が必要であり、有効な研修が行えるか、考えれば考えるほど、研修を計画することの難しさに直面します。

しかし、モデルワードに選ばれたことで、自分たちでパイロットプロジェクトを成功させたい、という自信がワード委員会のメンバーから感じられます。モデルワードプロジェクトや研修を通し、さらに自信をもってもらえるような研修が実施できるよう、現在、研修の具体的な内容を検討中しています。



ワード委員会メンバーの皆さん。

反町専門家（研修計画）

コラム1 シエラのチカラ：アクロバット乗り、アクロバット積み！—長距離移動の光景—

ああ、どうか事故にあいませんように。心の中で思わずつぶやきます。

写真は首都フリータウンと地方をつなぐハイウェイでよく見かける光景の数々です。気温30度以上、車は時速80キロで走行している、と想像してみてください。



後ろのトランクに人が（写真左）。車の屋根に人が（写真右）

写真では車が止まっているようですが、実際には、横風あり、突風あり、追い越し車両あり、対向車あり。後ろから見てみると、冷や冷やすることもあります。

公共交通機関にまだまだ発達余地のあるシエラレオネの人々にとって、数少ない地方と首都を結ぶ長距離タクシーやトラックなどは貴重な遠距離移動手段です。

この貴重なチャンスを逃すわけにはいきません。乗り心地は二の次。一見、大変そうな乗り方さえも楽しんでいるかのように見えます。特に、隣国ギニアで大量の食料や日用品を仕入れてから首都フリータウンに向かう車両の屋根には、荷物が山積みです。

首都と地方を移動するたびに見かけるアクロバット乗り、アクロバット積み。これもシエラのチカラ、でしょうか。どうかみなさん事故にあいませんように。



（平林リーダー）

コラム2 シェラのチカラ：プロジェクト宿舎事情

ポートロコ県に構えるプロジェクト宿舎は治安対策として四方を高い壁に囲まれ、その壁の上部には鉄条網が張り巡らされています。加えて警備会社から派遣された警備員が昼夜常駐しています。

一方、壁をはさんで両隣は民家です。両方の民家には複数の家族が同居しているようで、両隣からは毎日賑やかな声が聞こえてきて、ある意味で生活のリズムも感じ取れます。

発電機を止めて気持ちよく寝付いたある夜（町には公共の電気供給もないため宿舎では夜の7時から10時まで3時間のみ発電機を稼働させます）、隣の家の物音で目が覚めました。誰かがノックし続ける音です。そろそろいい加減に止めてほしいと思っていたところ、突然、女性の絶叫が響き渡りました。泣き叫ぶ様子からして到底尋常とは思えません。

私の想像が勝手に膨らみ、「女性が無理やり連行されそうになっているにもかかわらず、隣人たちは恐れて何もできずにいるのだろうか、。」と考えました。女性の絶叫は止みそうにありません。ハイジャックに遭遇したらどうするか？人質になったらどうすべきか？といったような想定は幾度となくしましたが、このような状況設定はありませんでした。

妻と娘たちには申し訳ないと思いつつ、ズボンを履き、ベルトを締め、靴の紐もしっかり締めて宿舎の庭に出て、警備員に隣家の状況を聞こうとしたのですが、肝心の警備員が寝ている体たらく。叩き起こして、今何が起きているかを問うたところ、「夫婦喧嘩です。」とのあっけない返答。

警備員によれば、深夜に奥さんが旦那さんの部屋を訪れ、ノックをし続けたので、旦那さんが怒ってしまい夫婦げんかが始まったそうです（夫婦が別居しているのでしょうか）。あまりの大きな声に、もう一人のプロジェクト宿舎の警備員（隣に居住）が仲裁のために出向いているとのことでした。事情がわかりひとまずほっとしました。

後日談ですがポートロコ警察署前で2x2mほどのカラフルなポスターを見かけました。“If you don't help her, who will?”（貴方が彼女を助けなかったら、誰が助けるのですか？）。せっかくのカラフルなポスターも隠れてしまっているのは、それだけ片隅に置かれるような問題だからでしょうか？

（田中専門家）



警察署前にあるポスター

コラム3 シエラの子カラ：たくましい筋肉のワケ –反町専門家–

今年の7月からプロジェクトのメインオフィスがポートロコ県に移り、専門家の宿舎もカンビア県からポートロコ県に引っ越しました。

ここ、ポートロコ宿舎のガードマンたちはみなたくましい筋肉！ガードマンとしては頼もしい限りです。当初、彼らがたくましいのはカンビア宿舎のガードマンより若いからだろう、と勝手に思っていました。

そんなある日、彼らの筋肉のワケを発見しました。ガードマンの手作りらしい、トレーニング器具。重石はコンクリートで見るからに重そうです。

そして、重石の形をよく見ると、どこかで見たようなあの形・・・タライでしょうか？どうやら、重石はタライにセメントを入れ、固めて作ったようです。しかも、サイズは3種類あります。なるほど、彼らの筋肉に納得です。



トレーニング用の器具。

(反町専門家)

コラム：「ごっつあんです！ シエラレオネ 第15話」–アットホームな創作料理–

車の往来が激しい通りを曲がり、車がすれ違えない細い道を数十メートル進みます。すると目の前に閑静な建物が現れます。

それこそ「オアシス ジュースバー&カフェ」。喧騒からはなれ、ゆっくり食事を楽しめるこのお店。まさに心が癒されるオアシスです。店の女性マネージャーさんは上品でとても愛想がいい方です。



この通りの奥にあるのがオアシス



お店のテラス。蚊よけメッシュがある心配りがうれしい。

このお店のうりは、静かでアットホームな空間と、創作料理でしょう。シエラレオネでこれまで試したことのない食材の組み合わせや工夫した料理が開拓精神を掻き立てます。ひらしゅらんが行った日の日替わりメニューは、バーベキューチキンとマンゴクスクス。

マンゴクスクス！？一度試してみたいくなるメニューじゃありませんか！お早速注文します。

お店から見える海を見ながらしばらく待っていると、愛想のいい店員さんが料理を持ってきてくれました。

プレートは上品。しかも盛り付けのかわいいこと。ボールのようなクスクスの上に、バジルをちょこんと飾り付けています。これもマネージャーさんの演出でしょうか。

マンゴクスクスは、クスクスに生のマンゴが入ったもの。クスクスとマンゴのコラボレーションは初めてです。まずは目で料理を楽しんだ後、早速、いただきます。

一口食べてみると、クスクスの食感のあとに、マンゴの甘みとさわやかな酸味が口の中に広がります。今までに食べたことのない味です。

次の一品も珍しい。フライした魚にグリルマンゴソースがたっぷりかかった一品。その名も Fish with grilled mango salsa. マンゴソースに、小鉢に入ったピリッと辛い唐辛子ソースを混ぜて、魚のフライをいただきます。これも太陽系から銀河系に一瞬で飛んでいくような、めったに経験できない新しい味です。

料理は奥が深いですね。自分の舌も守りに入ってはいけません。これからも新しい料理にどんどん挑戦していきます！

お店：Oasis 場所：Murray town, Freetown.

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★☆。これからどんな新しい創作料理が出てくるのか、楽しみです。自分の舌を開拓できます。



チキンバーベキューとマンゴクスクス。



フィッシュフライのグリルマンゴサルソース。手前は付け合せのポ

テトフライ

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、佐藤 専門家（県・村落開発）、田中業務調整、反町専門家（研修計画）、宿谷専門家（道路計画・施工管理）（2011年8月実績）